

デンマークの教員養成およびペダゴギーに関する一考察

山浦祐香¹・是永かな子²

(¹ 高知大学教職大学院・² 高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門,高知ギルバーグ発達神経精神医学センター)

A Study on Teacher Education and 'Pædagog' in Denmark

Yuka Yamaura¹ and Kanako Korenaga²

¹ *Programs for Advanced Professional Development in Teacher Education, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Kochi University;* ² *Research and Education Faculty Humanities and Social Science Cluster Education Unit · Kochi Gillberg Neuropsychiatry Centre,*

Abstract : In this study, we analyzed the teacher training in Denmark and the role of 'pædagog'. Education in Denmark has become a flexible educational system, and the philosophy of "school for all" suggests the development of inclusive education. The local government is also responsible for schools (special schools) for children with disabilities. It also suggests that there be various teaching and support methods at any school. In addition, it oversees the strength of cooperation among school, family and multiple institutes' progress on inclusive education. The function of early education will be increasingly important in the future. For example, both parents often work, and in the compulsory pre-school, rather than just providing child care, teachers teach the alphabet and other lessons from an early age. In studying the trends in both teacher training and 'pædagog' training in Denmark, we can obtain a thorough understanding of the reciprocal effect between theory and practice. Unlike in Japan, education students in Denmark begin practical teacher training in their 1st year. In addition, Denmark established a system of professional teacher lectures that focus on teaching students about the act of teaching. Analysis of the role of pædagog in Denmark showed that pædagog focus on 'sensory subjects'. This means a key role of a pædagog is to help develop children's emotions. Teachers are responsible for teaching academic subjects, while pædagogs teach subjects such as sports, crafts, and handicrafts, and run after school childcare programs. As a result of the pædagog's work, children have better, more enriched lives.

キーワード : デンマーク 教員養成 ペダゴギー

Key words: Denmark, Teacher Education, 'Pædagog'

1. 問題の所在と研究の目的

高福祉国家であるデンマークはノーマライゼーション発祥の地としても知られ、インクルーシブ教育の最も進んだ国の一つであると評価される¹。例えばデンマーク国民学校 (Folkeskole, 公立の義務教育学校であり日本の小中学校に相当する、以下国民学校) 法における第 20 条の第 2 項においては、特別教育が実施される場所として、特別学校、特別学級、通常学級におけるインクルーシブ教育などが規定されており非義務制の 10 年生なども含めて、様々な形態で実施されている²。

デンマークでは、2007 年 1 月に行政改革が実施され、これまでの Amt (県) の廃止、コムーネ (kommune : 基礎自治体、以下自治体) の再編によって、いっそう自治体の決定が優先されることになった。この「自治体改革」は学校教育システムに大きな影響を及ぼし、自治体内の通常学校の機能拡大や通常学校におけるインクルーシブ教育が推進される一方で、子どもの混乱や保護者の懸念の拡大、教育関係者の不満が生じているという報告もある³。

さてデンマークでは、大半の女性(母親)が働いている。また出産後の休暇取得の可能性は母親と父親の両方に拡大されるなど子育ての環境は変化している⁴。

デンマークの就学前教育・教育の特徴を見ると、幼稚園・保育園は社会省が管轄する就学前教育機関に一本化され、小中一貫の国民学校の 9 年間に加え、2009 年より就学前学級(0 年生)が義務化されていることがあげられる⁵。就学前学級では、主としてペダゴグ(Pædagog)が指導を担当し、国民学校教員も指導に参加する。デンマークの就学前教育では、子どもが遊びを通して学ぶことを大事にしており、就学前学級においても遊びながら学習の準備をすることが大切にされている⁶。

ペダゴグとは、保育士資格や生活指導員資格を意味しており、この資格を習得するためには、専門大学で 3 年半課程を修了しなくてはならない。2 年に相当する 4 学期分は大学で理論を学び、1.5 年に相当する 3 学期分は実習を行う構成で、学んだ理論に基づいて実習を行い、実習での課題を大学で解決する⁷。またデンマークの就学前教育内容について、ペダゴグは子どもとの対話を重視していたり、子どものセルヴェア(自己の価値、自分の存在を肯定する感覚)を重視して、評価したりしていることも特色であろう⁸。このように専門性を持った早期教育・保育の専門家の存在や特色のある就学前教育指導の内容は日本においても示唆に富むと考える。

以上をふまえて本論文では、デンマークのインクルーシブ教育や早期支援の背景的要因としての教員養成、とくにペダゴグに関して文献検討を通して把握することを目的とする。

2. 研究の方法

本稿では、デンマークの教員養成およびペダゴグに関して、以下の観点から検討する。第一に、デンマークの教育の概要について確認する。第二に、デンマークの教員養成の動向について考察する。第三に、デンマークのペダゴグの役割について分析する。

3. 結果

3. 1. デンマークの学校教育の概要

まずデンマークの教育制度について示す。

国際標準教育分類による開始年齢

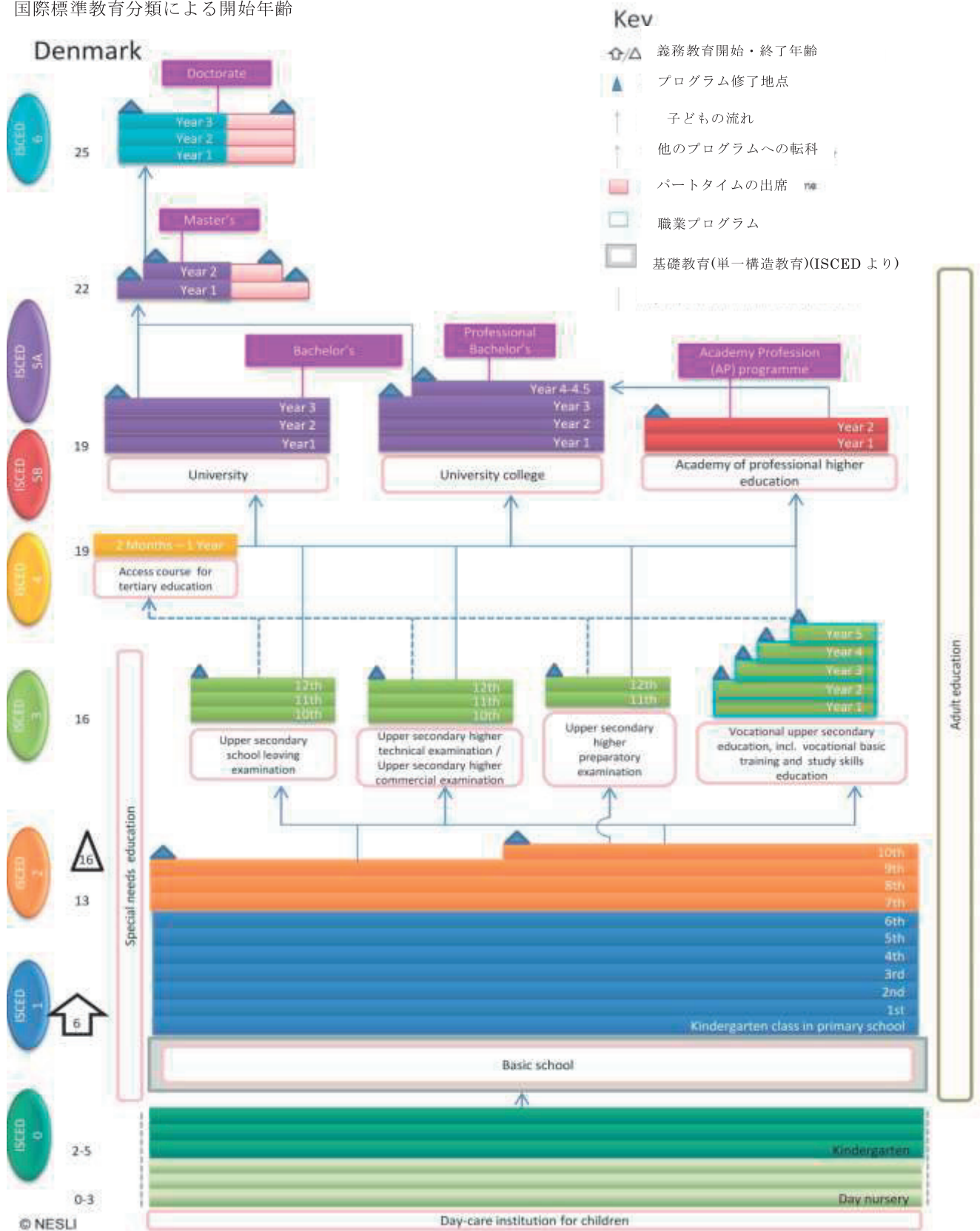


図1 デンマークの教育制度

出典：OECD (2013) EDUCATION POLICY OUTLOOK: DENMARK.

(http://www.oecd.org/education/EDUCATION%20POLICY%20OUTLOOK%20DENMARK_EN.pdf)

デンマークの教育制度は総合初等・前期中等学校,通常・専門高等学校と高等教育機関から成り立っている.子どもに教育を受けさせることは義務であるが,必ずしも学校に通わせる必要はなく,保護者はホームスクーリング(家庭内教育)等を選択することもできる.2009年8月より就学前学級(学校教育予備課程)が義務化され,0学年とされたことに伴い,義務教育期間は9年間から10年間に延長された.また,義務教育修了後,任意で10年生として一年間教育を継続できるシステムがある.高等学校は普通高等学校と専門高等学校からななり,修了試験(Studentereksamen)は大学などの高等教育機関への入学資格になる.大学教育はそれぞれの専門分野の研究を主体としており,16の大学のうち,8校が総合大学で,残りの8校が工科大学,歯科大学などの専門大学である.その他に,デザインやエンジニアリング等の職業専門教育機関がある.これらの職業専門教育機関修了後,職業学士の資格を取得できる⁹.

さて特別教育に注目すると,デンマークでは「みんなのための学校(Skolen for all)」をキーワードとして教育改革が進めてきた.デンマークにおいて,1980年,自治体は学習上の困難を有する子どもおよび軽度・中度の障害のある子どもの支援に責任を負い,県は重度の障害を有する子どもの支援に責任を負うことになった.しかし,2007年以降県制度の廃止により県管轄の特別教育が自治体管轄に移行したため,各自治体は通常学校を主体としたインクルーシブ教育を具体化する改革を進めている.また指導方法の選択においては,教育心理研究所(PPR)の心理士などの専門家によって判定・助言がされる¹⁰.

3. 2. デンマークの教員養成

次にデンマークの教員養成の概要について確認する



University of Aarhus
Metropolitan University College (University College Capital)
University College Lillebaelt
University College of Northern Denmark
University College Sealand
University College South
VIA University College
West Jutland University College

図2 デンマークの教員養成大学・カレッジ

出典: STUDY IN DENMARK HP

<http://studyindenmark.dk/study-options/danish-higher-education-institutions>(2018年9月22日参照).

デンマークの高等教育は修業年限や学術的観点から長期,中期,短期の3つのカテゴリーに区分される.長期の高等教育機関は3年間の学士課程,2年間の修士課程などの5年間以上の課程をもつ総合大学ならびに相当の単科大学である.教育系の大学としては唯一,デンマーク教育大学(2007年オーフス大学に統合された)がこれに含まれる.これに対して,中期は3年から4年課程,短期は1から3年課程の非大学型高等教育機関に位置づけられる.「中期」の非大学型高等機関である教員養成カレッジ(Seminarium)への入学要件としては,高等教育機関準備試験(Studentereksamen,あるいはHF),もしくはそれに相当する試験(HHX,あるいはHTX)のいずれかに合格することとされる.教員資格の種類については,就学前学校教員,国民学校教員,後期中等学校教育学校教員,職業教育学校教員の4つに大別される¹¹.

教員養成を主に行っている高等教育機関は,デンマークで8総合大学・カレッジである.教員養成プログラムは4年間で,240ECTS(ECTSは単位のことである.日本の90分×15回の講義は3ECTSに相当する)の修得が必要であ

る。学生は、このプログラムにおいて、一般教育理論、心理学、教育科学の教育科目で 33 ECTS、キリスト教研究/住民移転/市民権の科目で 17 ECTS、2 つもしくは 3 つの主教科で合計 144 ECTS、学士研究で 10 ECTS、教育実践で 36 ECTS の習得が必要である¹²。教育実践において、学生は 4 年間で選択した専攻の全ての教育実践を行う必要がある。教育実践の目的は、理論と実践のつながりであり、教育方法(理論)は、実践の準備、実践、そして評価の技術が元となる¹³。

以下は、デンマークの University College Capital(以下、UCC)の 2018/2019 年度教員養成プログラムである。

表 1 UCC の教員養成プログラム (海外からの学生のためのカリキュラム, spring semester 約 2 カ月半)

コース 1 (全員必須)	PL4: 一般的指導力	英語	10 単位	火曜日
コース 2	SM32: 専門科目	英語	10 単位	木曜日
コース 3 (A B or C)	A) EN4: 学生の能力に焦点を当てた外国語教授法	英語	10 単位	水曜日
	B) PR1a: 留学生のための実地指導 (15 日間)	英語か仏語か独語	5 単位	個別に計画さ
	C) PR1b: 留学生のための実地指導 (30 日間)	英語か仏語か独語	10 単位	れた日

PL: pædagogik og lærerfaglighed (教育学と指導技法) とくに PL 4 : 言語的、文化的に多様な教室での指導

PR: praktik (教育実習)

EN : English (英語)

4,32,1a,1b などの数字は、それぞれの教科の番号である

出典 : Studieordning for Læreruddannelsen Campus Carlsberg og Læreruddannelsen Bornholm 2018- 2019 https://ucc.dk/sites/default/files/studieordning_for_laererruddannelsen_cc_og_bornholm_2018_2019_generelle_bestemmelse_r_1.pdf, pp.43-44(2018 年 9 月 15 日参照)., Short descriptions of all modules offered by the Department of Education pp.5-6(2018 年 9 月 21 日参照).

表 2 UCC の教員教育キャンパス Carlsberg の教員養成プログラム 4 年課程

教員の基本スキル (LG) 60-80 ECTS(単位)	教科対象 (UV) 120-140 ECTS	教育実習(インターンシップ) 30 ECTS	学士研究 15 ECTS
・一般教育 (1 モジュール+ 5 ECTS) キリスト教・生活教育と市民権 モジュール 1: 多様な学校(KLM) ・教育と学習のスキル (4 モジュール) モジュール 2 : 一般指導スキル (PL1) モジュール 3 : 子どもの学習開発 (PL2) モジュール 4 : 特別教育 (PL3) モジュール 5 : バイリンガルの学生 (PL4) ・イントロモジュール (入門) 教員の 仕事内容 (PLK と LM から 5 ECTS 履修) BA1 初等教育教員教育履修 (PL から 5 ECTS 履修)	・美術 (3 モジュール) ・生物学 (3 モジュール) ・デンマーク語, 学年 1-6. (4 モジュール) ・デンマーク語, 学年 4-10. (4 モジュール) ・英語 (学年 1-6,4-10) (3 または 4 モジュール) ・フランス語 (3 モジュール) ・物理/化学 (3 モジュール) ・地理 (3 モジュール) ・歴史 (3 モジュール) ・工芸とデザイン (3 モジュール) ・スポーツ (学年 1-6,4-10) (3 モジュール) ・キリスト教/宗教 (3 モジュール) ・数学 (学年 1-6) (4 モジュール) ・数学 (学年 4-10) (4 モジュール) ・音楽 (3 モジュール) ・自然/テクノロジー (3 モジュール) ・社会科学 (3 モジュール) ・ドイツ語 (3 モジュール)	実習 I (1 モジュール) 実習 II (1 モジュール) 実習 III (1 モジュール)	学士 (15 ECTS) BA1 : 教育問題 探求 (5 ECTS) BA2 : 学士修了 課題 (10 ECTS)

UV: undervisningsfag (教科科目)

LG: lærerens grundfaglighed (基礎科目)

BA: bachelorprojektet (学士研究)

KLM: kristendomskundskab, livsoplysning og medborgerskab (キリスト教, 生活教育と市民権)

PL: pædagogik og lærerfaglighed (教育学と指導技法)

PR: praktik (教育実習)

SPEC: specialiseringsmodul (特別教育)

モジュールは講義(活動)数で、各科目の必要な ECTS を取得する必要がある。

出典 : Studieordning for Læreruddannelsen Campus Carlsberg og Læreruddannelsen Bornholm 2018- 2019
https://ucc.dk/sites/default/files/studieordning_for_laererruddannelsen_cc_og_bornholm_2018_2019_generelle_bestemmelse_r_1.pdf pp.43-44 (2018年9月15日参照)

また,UCCの中でも,University college of Metropol では,教員の基礎的な専門資格の基礎科目は,LG1 : 多元的学
 校における一般教育,LG2 : 一般的な教授能力,LG3 : グローバル社会における教員の専門性,LG4 : 子どもの学習と
 開発,LG5 : みんなのための学校,LG6 : 教員の専門性,となっている.教育学と指導技法は,PL 1 : 一般教育能力,PL 2 :
 子どもの学習と開発,PL 3 : 特別教育,PL 4 : 言語的,文化的に多様な教室での指導となっている¹⁴.

そして以下に課程の例として特別教育コースを取り上げた.特別教育コース選択者は,1-6年と4-10年の対象のデ
 ンマーク語の講義をとる必要がある.また,3つの特別な講義(活動)の取得も必要である.それらはI識字困難につい
 て,II子どもの困難への多機関(学際的)との協力,IIIガイダンスと協議,である.

表3 特別教育コースの構造

1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期
教科1(1) デンマーク 語	教科1(2) デンマーク 語	教科1(3) デンマーク 語	教科1(4) デンマーク語 テストあり	特別教育(3)	教育学と教育 スキル1 テストあり	教育学と教育 スキル4 テストあり	学士研究2 テストあり
導入 (基礎科目)	教科2(1) デンマーク 語	教育学と教育 スキル3 テストあり	特別教育(1)	教科2(3) デンマーク語	教科2(4) デンマーク語 テストあり	学士研究1	教育実習3 テストあり
教育学と教育スキル2 キリスト教、生活教育と市民権 テストあり		教育実習1 テストあり	特別教育(2)	教科3(1)	教育実習2 テストあり	教科3(2)	教科3(3) テストあり

出典 : Studieordning for Læreruddannelsen Campus Carlsberg og Læreruddannelsen Bornholm 2018- 2019,
https://ucc.dk/sites/default/files/studieordning_for_laererruddannelsen_cc_og_bornholm_2018_2019_generelle_bestemmelse_r_1.pdf,p49.(2018年9月21日参照)

特別教育コースにおいては,教科はデンマーク語を習得する必要がある.そのため,デンマーク語1という授業を選
 択し,その講義を順に(1)~(4)を習得するコースプログラムになっている.

3. 3. デンマークの就学前教育制度

幼少期は,様々な機関が関与している.政府の省庁において,社会省が,ECEC(Early Childhood Education and
 Care Policy)の第一の責任をおっており,子どものためのデイケア施設(dagtilbud)も管轄下である.

教育省は就学前学級,初等中等教育,放課後施設,労働省は保護者と育児の休暇計画を担当しており,法務省は子
 どもの法的地位と立場の保障を担当している¹⁵.

幼児ケアは北欧諸国において充実している¹⁶.1960年から70年代にかけて子どものためのデイケア施設が増加し
 た背景には,多くの女性が労働市場へ参加するようになったことと関係がある.これは独身女性だけでなく,既婚女性
 も,子どもがいても引き続き労働市場に参加していることを意味している.デイケア施設ができた当初は,その目的と
 して,母親の子育ての責任を代わりに引き受けるものであった.しかし,その後は「労働市場の発展」と「保護者の生
 活,権利の保障」のために必要とされてきた.そして同時に産児,育児休暇や児童手当制度など,子どもを育てる家族に

対する様々な社会制度が整えられていく¹⁷。

2008年8月26日に告示された「ソーシャルサービス法8条」の第2条に、①子どもの全面的な人間形成・個の確立、②人間関係・社会能力、③言葉、④体と動き、⑤自然と自然の現象、⑥文化的表現方法と価値という6つのテーマが示されており、このテーマごとに「学びのプラン」（保育計画）を立てるように示されている¹⁸。

なお、保育の中で重視されている考え方は以下の通りである。①子どもはユニークな個人として認められており、保育士は子どものそのままの姿を受け入れる。②保育士は子どもと同等な位置に立って話をする。③子どもの興味や関心が大切にされ、やりたいことを追求できるように配慮する。④子どもがいろいろな遊びに挑戦できるように配慮する。⑤子どもの人格形成、人間関係に重きをおいており、自分を良く知り、自分自身が好きな子どもに育つように指導する。⑥子どもはそれぞれ異なる興味や関心を持っていることを原点にしており、複数の活動が同じ場所で行われるように配慮する、と¹⁹。

1990年代に入ると、子どもケア、特に就学前の子どものケアは、子どもの将来の教育機会のもととなる重要な時期として認識されるようになる。そして、子どものデイケア施設は単に子どもを保護者が仕事をしている間に預ける場所として位置づけるのではなく、子どもへの教育的影響や、将来の様々な能力を発達させるための重要な機関と考えられるようになる。この影響は、例えば、保育所の指導要領を規定する動きや、就学前学級を国民学校1年へスムーズに移行するための準備期間として位置づけ、遊びの中にアルファベットや計算の練習を取り入れるなどの動きがでてきた。さらに学習面だけでなく、子どもの社会性を養うという面からも、早期から同年齢の子どもと生活することがよい影響を与えるとも考えられていた。デンマークのデイケア施設の役割は、子どもの様々な能力を発達させるための場として認識され、「子どもを中心に」というスローガンをもとに活動が行われている。それは、就学前後の時期を子どもの発達の重要な時期と捉えた考え方に基づいているといわれる²⁰。

デンマークの保育制度は、保育形態により、①ダイナーサリー、②デイケアセンター、③年齢統合保育所、④ファミリーデイケア、⑤プリスクールに分けられる²¹。

表4 デンマークの就学前保育制度

施設	利用時間	年齢	スタッフ	内容
ダイナーサリー	保護者の就業時間に応じて (一般的には 6:30-17:00 前後)	0-3歳	ペダゴギー, ペダゴギーアシスタント	乳幼児を対象とした保育所
デイケアセンター (就学前教育機関)		3-6歳		3歳以上の幼児を対象とした就学前教育機関.自然の中での活動を中心としたもの(森の幼稚園)や、特別なニーズのある子どもとの統合を意図したものなど、さまざまな方針の施設がある.
年齢統合保育所		0-6歳		ダイナーサリーとデイケアセンターが統合され、就学前の乳幼児が一貫した保育を受ける就学前教育機関.
ファミリーデイケア		0-6歳	無資格者	施設型保育の不足を補完することを目的としたサービス.自宅を使って、乳幼児をもつ保護者が自分の子どもとともに、4~5人の乳幼児を保育する.デイケアマザー(保育ママ)と呼ばれる保育者を自治体が雇用する.
プリスクール(就学前学級)	1日当たり3時間	5-6歳	ペダゴギー, 小学校教員	小学校に付設され小学校就学に向けての準備教育を行う.

出典:石井正子(2010)スウェーデン、デンマークにおける特別なニーズのある子どもの保育・統合保育所及び保育者養成校視察報告『學苑』昭和女子大学近代文化研究所,836,pp.63-74.

3. 4. デンマークの就学前教育

デンマークの就学前学級(børnehaveklasse)は1970年代から設置されており、当時は「幼稚園クラス」と呼称されていた。2000年代のいくつかの調査では90%以上が幼稚園クラスを利用しており、幼稚園クラスを利用していない子どもとの社会的成熟度の違いが明確になったため2009年度より幼稚園クラスが義務化され、通常「0年生」学級と呼ばれている。6歳の8月から就学する子どもが多いが、他の北欧諸国と同様に就学は5歳から7歳と幅を持たせてあり、ペダゴギー、保育施設スタッフと保護者が子どもの育ちについて話し合いながら、最終的には保護者の判断によって就学が決定する²²。また、就学前学級が1年修了した段階で、保護者と関係者の協議で学校への就学がまだ早いと判断されれば、就学前学級を2年間経験してから学校へ就学する場合もある。さらに新年度開始の8月の就学前学級就学をひかえて、5月から就学まで「就学前準備クラス」が設定され、任意で通うことができる場合もある。近年では、遊びを中心とした社会性や規律の理解のみならず、アルファベットや数字など従来は国民学校1年生で行う内容を指導するクラスもみられるようになっている²³。

就学前学級は半日で、1日3時間、週に5日間、学校授業日程と同じ期間開かれている²⁴。就学前授業を規定する条項は法律によって定められている。国民学校は1年間の就学前学級と9年間を合わせて義務教育としている。自治体は就学前学級を管轄する。基本的に6歳の誕生日の暦年、または特定の状況下で1年前または1年後に受けることも可能である。就学前学級での指導は、可能な限り遊びの形をとるべきである。さらに、日常生活に親しみを持たせるために努力すべきである、などの規定がある²⁵。

また国民学校法²⁶では、就学前学級に関して決まったカリキュラムや目標はないが、地方によって活動内容のガイドラインが提案されていたり、シラバスや年間計画を作成したりしている²⁷。

3. 5. デンマークのペダゴギーの役割

デンマークにおいて、多くの子どもが6カ月から2歳までは保育所(または保育ママ)、3歳児から5歳児では就学前教育機関に通っている。就学前学級(0年生クラス)は国民学校に付設されており、主に満6歳に達した幼児を対象に1年間の教育を行っている。就学前学級は、遊びや他の子どもとの共同活動を通じて学校生活への準備を行うものである。また就学前教育機関では、そこでの生活を今まで家庭にいた子どもが初めて経験する「社会生活」として捉え、自由と自己決定の精神の下、遊びを通して人とのコミュニケーションの取り方、社会性を学ぶことを主な教育内容としている。また、遊びが主体となっていた環境から学校という授業による教科学習主体となる環境に慣れるため、多くの就学前学級では年度が開始される5カ月ほど前(3月)から学校に通い始め、新しい生活の準備がなされる。保育者であるペダゴギーの多くは、以上の就学前教育機関、国民学校の就学前学級さらには学童保育センターで子どもの教育と支援を担当する²⁸。

就学前教育の担い手がペダゴギーであるが、その活動場所及び支援対象は、就学前教育機関、国民学校0年生(就学前学級)、学童保育に限らず、老人福祉センター、障害者施設などの社会福祉分野における施設、ホームレス、薬物乱用者、精神病患者、また保護者のアルコール依存や薬物依存によって施設に入っている子どもたち、ADHDや自閉症などの発達障害のある成人のケアなど年齢を越えて、社会的に弱い立場にある人々を対象に様々な支援を行い、その活動場所・支援対象は非常に広範囲にわたる²⁹。

学校や施設の現場で、重要な役割を果たしている専門職がペダゴギーである。ペダゴギーとは、日本語では「社会教育士」「社会生活指導員」「社会保育士」等と訳されるが、基本的には日本でいう保育・療育領域の指導者である。就学前教育機関、学童保育などで子どもを相手とする仕事に就いている人が大部分のようであるが、配属先によって、障害者や社会的弱者に対する教育的支援をする「ソーシャル・ペダゴギー」やレクリエーション(リラクセス・運動療法)を担当する「アウスペニングス・ペダゴギー」等も含まれ、ペダゴギーの活躍する場は「子どもから刑務所まで」といわれるほど広い。ちなみにソーシャルワーカーは病院・機関等において相談援助業務のみを行うもので、別の養成課程がある³⁰。

ペダゴギー養成課程は、「職業短期大学」(university college)という中期高等教育機関に位置づけられている。中期高

等教育機関は、師範学校(国民学校教員養成),幼児教育者養成学校,技術高等専門学校,ソーシャルワーカー養成学校,作業療法士・理学療法士,看護師・助産師,デザイナー,建築家,ジャーナリスト等の養成を目的とする教育機関で教育機関は3.5年,修了すると「職業学士」という学位が授与される.職業短期大学は2008年1月から施行された新しい組織である.それまでデンマークにおける大学(university)は,研究を目的とする5年生の修士課程のみであった.しかし,ヨーロッパの他国との互換性を高めるために,学士制度が導入され,それまでであった中期継続教育機関と教員養成大学などを統廃合し,全国で8つのUniversity collegeに再編したのであった³¹.ペダゴギーには,就学前教育を担う保育士の役割の他に,早朝の始業前の保育や放課後の子どもの居場所を管理監督する学童保育・青少年クラブ等の指導者の役割を担う場合もある³².

3. 6. UCCにおける教員養成

UCCは,教員教育,幼児教育,社会教育,特別教育,保健教育などの国際的なコースを提供している.英語で受講できるコースは,北歐モデル(The Nordic Model)・対話と和解の教訓(Didactics of Dialogue and Reconciliation)(DIDAR)・イノベーションラボ(Innovation Lab)・ビジュアルリテラシー(Visual Literacy)・教育と学習におけるミュージカル表現(Musical expression in teaching and learning)・学習者の学問的,社会的,個人的な発達(The learner's academic, social and personal development)・英語教育1:言語意識(English language teaching 1: Language awareness)・英語教育2:言語獲得とコミュニケーションスキルのプロセス(English language teaching 2: Processes in language acquisition and communication skills)・英語教育3:外国語教育における異文化能力・英語教育:デジタルリテラシー(English language teaching 3: Intercultural competence in foreign language teaching)・英語で科目を教える(English language teaching: Digital literacy)・ヨーロッパにおける教育の権限(Empowering Education in a European Context)・英語での第二教科教授法(Teaching lower secondary subjects in English)・アナログ技術とデジタル技術による芸術と工芸の研究(Creativity and experimental processes – working with arts and crafts through analogue and digital technologies)・日常の教育実践における身体活動の統合(Integration of physical activities in everyday teaching practice)である(各10ECTS).

「早期教育,社会教育,特別教育(Study Early Childhood Education, Social Education and Special Education)」のコースでは,20-30 ECTSの取得となり,学期ごとに1つのコースの選択となる.秋学期では,ヨーロッパの視点から見た子どもと若者との教育的研究(Pedagogical Work with Children and Young People in a European Perspective)・北歐の視点での子ども時代-デンマーク(Childhood in a Nordic Perspective - a Danish Setting)・教育におけるおとぎ話と創造的な物語,春学期では教育におけるおとぎ話と創造的な物語(Fairytales and Creative Storytelling in education),また春学期ではさらに特別なニーズを持つ人々のコース(People with Special Needs)がある³³.

UCCは,専門分野によって教員養成(Teacher education),保育者養成(Social education),看護(Nursing),理学療法(Physiotherapy)等7つの分野に分かれている.保育者養成部門では,幼児教育(Early childhood education),特別ニーズ教育(Special needs education),社会ケア教育(Social care education)について学ぶ.具体的な科目としては,一般教育(General education),社会学(Social studies),コミュニケーションと文化(Communication and culture),健康教育(Health education),芸術と自然(Art and nature),音楽とドラマ(Music and drama)などがある.就学期間は3年6カ月(7学期)が基本で,そのうちの1年半は実習にあてられる.実習は3カ月の実習が1回と6カ月の実習が2回ある.実習中は,手当てが支給される.また,最後の6カ月の実習先は学生が主体的に選択できる.

授業は,原則として少人数のグループで行われ,グループでの課題解決を通して学習を深め,試験もグループごとに実施する.ただし最終試験は個別の筆記試験と口頭試問である.最後の学期ではそれぞれが選んだテーマについての論文を作成する³⁴.

デンマークにおけるペダゴギー教育の基本的構造は以下のように構成される³⁵.

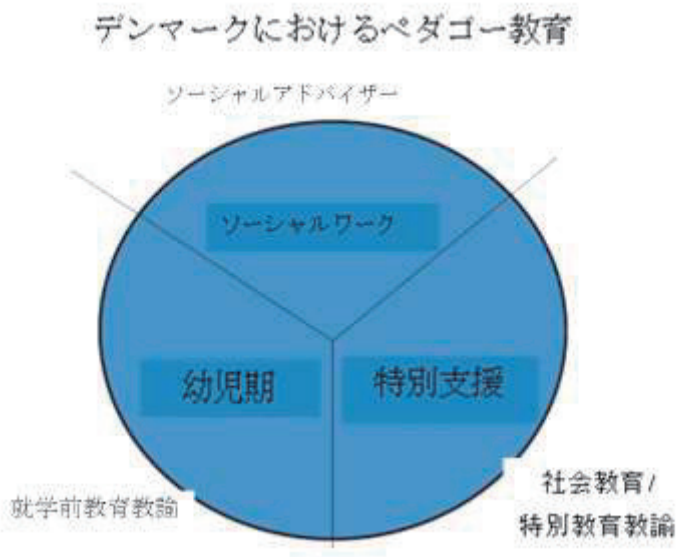


図 3 デンマークにおけるペダゴギー教育

出典 : Karen Prins (2012)Lecturer in Pedagogy, International Coordinator UCC, Frøbel.

次にデンマークにおけるペダゴギー養成についてフレーベル就学前教育機関と連携した例を示す。

表 5 フレーベル就学前教育機関と連携したペダゴギー養成³⁶

1 学期(1st Semester)
6 週間の講義(6 weeks of classes)・3 週間のプレイスメントプロジェクト(3 weeks of placement project)・12 週間のプレイスメント(0-6 歳)/10 日の現場学習 at Frøbel(12 weeks of placement (0-6ys)/10 studydays at Frøbel)
2 学期(2nd Semester)
7 週間の講義と教科学習(7 weeks of classes, all subjects)・2 カ月の講義/プロジェクト・2 教科(2 months class/project, 2 subjects)・1 カ月のプロジェクト(1 month project)・年度末試験(1st year exam)
3 学期(3rd Semester)
6 カ月のプレイスメント/10 日の現場学習 at Frøbel(6 weeks of classes(months placement/10 studydays at Frøbel)weeks of classes)・3 週間のプレイスメントプロジェクト(3 weeks of placement project)・12 週間のプレイスメント/10 日 at Frøbel(12 weeks of placement (0-6 ys)/10days at Frøbel)
4 学期(4th Semester)
2 カ月のプロジェクトと学術的教科(2 months project, Academic subjects)・2 カ月の講義と 2 教科(2 months classes, 2 subjects)・テスト,社会科学(1.exam, social science)
5 学期(5th Semester)
2 カ月のプロジェクト・3 教科・文化的演出(2 months project, 3 subjects, cultural production)・1.5 カ月のプロジェクト/講義(1,5 month project/classes, cultural subject)・文化的教科・テスト・言語+文化(1 exam, language + Culture)・6 週間のワークショップ/学習フォーラム・2 教科・グループと仕事のエリアの専門科目(6 weeks workshops/study forums, 2 subjects, target group and working area - specialization)
6 学期(6th Semester)
6 カ月のプレイスメント/10 日の現場学習 at Frøbel(6 months placement/10 study days at Frøbel)
7 学期(7th Semester)
2 週間の専門分野のレポート(2 weeks specialization report)・1 カ月 pædagogiy についてのテスト(1 month, exam pedagogy)・1 カ月文化的教科のテスト(1 month, exam Cultural subject)・2 カ月の学士研究(2 months, BA project)

出典 : Karen Prins(2012)Lecturer in Pedagogy, International Coordinator UCC, Frøbel. Lecturer in Pedagogy, International Coordinator UCC, Frøbel.

このように、実習の期間が長いことが特徴的である。また、大学での学びと実習先での実践の繰り返しによって、より深い理論と実践の探求につながっていると考えられる。

科目は、科学系が心理学、社会学、哲学、人類学、コミュニケーションであり、教育学・健康文化系が運動と健康、音楽とドラマ、芸術・工芸がある³⁷。

ペダゴギーに関する先行研究³⁸によると、子どもの感性を豊かにするためにはペダゴギーの感性、感覚的・美的・芸術的観点を育成することが必要であるという方針のもと、「ペダゴギーの感性を養う」ことを目的とし、3つの感覚的科目があると指摘されている。例えば「健康・身体と運動」では、幼児が遊び、運動、ダンスと体育などの身体的活動をペダゴギーの活動に加えることができるようにすることを目的としている。「表現・音楽とドラマ」では、ドラマを自己表現の一つの手段として捉え、特にドラマにおける遊びを子ども自身が無意識に人間の経験を探究する手段であると位置づけ、ドラマ活動の目的を「想像力、創造性と柔軟な考え方の発達」と「焦点化と集中力の発達」を促進することを目的としている。「野外教育・工芸、自然と技術」では、自然物などを使い表現すること、第三者への自己表現、活動する喜び、自己開発欲を向上させること、さらに感覚的観点が、どのようにして自然の中で手工芸における活動を豊かにし、刺激を与えることができるかを学ぶことを目的としている³⁹。

3. 7. ペダゴギーの特別学校での役割

現在のデンマークの特別教育は大きく分けて、①地域の国民学校の学校長の権限で決定される、主に軽度の学習遅滞児を対象とした補習的な支援教育、②自治体が決定する主に情緒障害児や知的障害児や学習遅滞児などを対象とした特別教室、③レギオン(広域)が設けている特に自閉症児、視覚・聴覚障害児、重度・重複障害児などを対象としている「広範囲な特別教育」の3つの形態に分けられる⁴⁰。

②の自治体が決定した知的障害児のための国民学校の一例を以下に示す⁴¹。ここでは5歳から18歳の知的障害児(重複障害含む)を対象とする。国民学校と同様に0年生から10年生であるが、就学年齢は本人の発達段階によって5歳から7歳程度と穏やかである。教職員は合計70名(教員35名、ペダゴギー25名、事務員10名、その他-言語療法士・作業療法士・理学療法士10名)。クラスは学年ごとに、子ども10人程度に対して教員2名、助手2名、ペダゴギー1名が配置されている。職員の役割分担としては、教科は教員が担当し、生活指導(スポーツ・工芸・手芸など)や放課後の余暇生活はペダゴギーが担当しているが、活動は連携・統合するように努めている⁴²。

デンマークの特別教育は、特別学校、国民学校に併設する特別学級、通常学校の中のインクルーシブ教育という形態で展開している。就学前段階としては、障害児専門の就学前教育機関のほか、通常の就学前教育機関に在籍しながらインクルーシブ保育を受けている児童も多い。先述のように、学校の運営に関しては自治体の意向が強く、自治体によって差が見受けられる。特別学校でも通常学校と同様に少人数クラスでの教育が進められており、授業方法については日本のような教授方式を中心とした一方向性の授業ではなく、子どもが主体的に発表することなどを通じて、グループ学習、相互学習が展開されている。特別教育においても学力偏重ではなく、ディベート活動などを通して、互いに協議・協調し、考える教育を重視している⁴³。

デンマークの特別学校では教員の他、ペダゴギーが授業や学校生活をサポートする体制が構築されている。自治体や在籍児の障害特性によっても異なるが、その他の専門職として作業療法士、理学療法士、言語聴覚士などのスタッフが配置されている。一般的に特別学校が対象とする障害種は、言語障害、弱視、難聴、知的障害、学習障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、肢体不自由、重度重複障害など多種多様である。これまでは障害が比較的軽度な子どもも必要に応じて特別学級に在籍していたが、政府の方針として、障害が比較的軽度な子どもは国民学校の通常学級で対応していく形になりつつある⁴⁴。

3. 8. デンマークのインクルーシブ教育・保育における乳幼児や保護者の相談・支援体制

デンマークのインクルーシブ教育・保育における乳幼児や保護者の相談・支援体制の特徴は、①1人の子どもとその保護者などに対する、様々な専門家による重層的なサポート体制・制度、②専門家チームによる対応の2点である。

「①1人の子どものとその保護者などに対する、様々な専門家による重層的なサポート体制・制度」については、デンマークでは、障害のある乳幼児1人に対して、日々の保育を行っている保育ママやペタゴーが1人配置されており、また、その子どもを担当する自治体の行政担当者、家庭医、ソーシャルワーカーがいる。特に自治体の行政担当者は、その子どもに関わる様々な専門家たちのコーディネーターの役割も担っており、子どもの情報はその行政担当者に集まり、行政担当者の責任のもとで自治体として子どもにどのように対応していくのかを決定している。さらに、子どものニーズに応じて、心理士、作業療法士、言語療法士、大学病院の小児科医などによる定期的な支援などを行っているなど、日常的に接する専門家(保育ママあるいはペタゴーなど)から、頻りに接する専門家(家庭医やソーシャルワーカーなど)、定期的或は必要に応じて接する専門家(心理士、作業療法士、言語療法士、大学病院の小児科医など)まで、様々な専門家が1人の子どもの担当者として子どもを重層的に取り巻くような支援体制・制度が作られている。そういった専門家を自治体の子どもの行政担当者がコーディネートし、子どもに関する情報の管理・収集と専門家間での情報の共有化を図るなどの役割を担うことで、様々な専門家の視点・観点を有機的に結び付けていきながら一人の子どもの支援ができる体制が組み立てられている。このことがデンマークの障害児の支援体制・制度が機能している大きな要因の一つになっていると考えられる。また、これと同様のことが、障害児の保護者に対しても行われており、例えばソーシャルワーカーによる支援、心理士による支援、家庭医による支援など、多面的な支援・相談体制が組み立てられている⁴⁵。

次に「②専門家チームによる対応」であるが、自治体の行政担当者が中心になって開かれる自治体の通園(入所)審査委員会にしても、障害児就学前教育機関において年に1度開かれる会議にしても、様々な専門家(例えば、ペタゴー、支援員、園長、小児科医、心理士、作業療法士、理学療法士など)の審議によって、1人の子どもの評価がなされている。このように1人の子どものに対して、様々な専門家からなるチームが作られており、チームとしてその子どもに対応していく支援体制・制度がある。

従って、デンマークにおいては、障害のある乳幼児に対して、様々な専門家たちによる重層的な支援体制・制度がある中で、自治体の行政担当者がコーディネーター役となり、その専門家たちによるチームを定期的あるいは必要に応じて編成し、子どもに対応するなど、自治体や地域の中にある専門機関や専門家などの社会的資源を有機的かつ有効に利用できるような支援体制・制度をとっている点が特徴としてあげられる⁴⁶。

4. 総括

本稿では、デンマークの教員養成およびペダゴーに関して3つの観点から論文検討を行った。

第一に、デンマークの教育の概要については、デンマークの教育が柔軟な教育システムになっており、「みんなのための学校」の理念をもとにしたインクルーシブ教育への展開がうかがえた。特別学校が自治体の管轄になったことで、学校独自の指導方法や多様な支援の工夫が開発されている。学校と家庭、多機関との連携の強さもうかがえ地域課題に応じたインクルーシブ教育の進展が期待される。共働きの割合が高いことや、就学前学級が義務教育となったこと、文字などを早期から教える傾向がみられるなど、早期教育の機能が今後も重視されるであろう。

第二に、デンマークの教員養成の動向については、教員養成及びペダゴー養成カリキュラムいずれにしても、理論と実践の往還関係によって深い学びに導いていた。教員養成1年目からの実習が存在し、教員の職業を念頭に置いた専門的講義によって構成されていた。

第三に、デンマークのペダゴーの役割についての分析では、ペダゴー養成での特徴としての「感覚科目」に注目し、ペダゴーの専門性の一つは子どもの「感性を豊かにする」ことであると分析した。教員とペダゴーの役割分担としては、教科指導は教員が担当し、生活指導(スポーツ・工芸・手芸など)や放課後の余暇指導はペダゴーが担当している。結果的にどの子どももより良く生活することを指導する役割がペダゴーの専門性の一つであると考察した。

5. 謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP18K02793 の助成を受けたものである。

註・引用文献

- 1 是枝喜代治,菅原麻衣子,角藤智津子,鈴木佐喜子,長谷川万由美(2017)デンマークにおけるインクルーシブ教育の実際—フン県及びオーフス県近郊の現地調査から—『ライフデザイン学紀要』13,pp.297-322.
- 2 高橋純一,谷雅康,青木真理(2016)日本とデンマークによる特別支援学校の比較『人間発達文化類論集』24,pp.1-11.
- 3 前掲 1.,是永かな子(2013)「デンマークにおけるインクルーシブ教育の推進と特別学校の機能」『高知大学学術研究報告』62,pp.149-159.
- 4 OECD Thematic Review of Early Childhood Education and Care Policy Early Childhood Education and Care Policy in Denmark.
- 5 横山真貴子(2013)保幼小をつなぐ保育者養成 デンマークの保育・教育の概要『日本発達心理学会第24回大会発表論文集』p.66.
- 6 堀越紀香(2013)保幼小をつなぐ保育者養成 デンマークの0年生『日本発達心理学会第24回大会発表論文集』p.66.
- 7 齋藤正典(2013)保幼小をつなぐ保育者養成 デンマークの保育者(ペダゴギー)養成『日本発達心理学会第24回大会発表論文集』p.66.
- 8 櫻谷真理子(2015)「個を大切に作るデンマークの保育に学ぶ—自立性と自己決定を重視した実践—」『立命館産業社会論集』51(1)pp.67-84
- 9 日本教育大学協会(2005)『世界の教員養成Ⅱ—欧米オセアニア編』pp.104-105.
- 10 同上.
- 11 前掲 9.
- 12 OECD Review on Evaluation and Assessment Frameworks for Improving School Outcomes(2011) COUNTRY BACKGROUND REPORT FOR DENMARK,pp.44-45.<http://www.oecd.org/education/school/47747224.pdf>(2018年9月22日参照)
- 13 同上.
- 14 Short descriptions of all modules offered by the Department of Education,pp.5-6(2018年9月21日参照).
- 15 Background Report OECD Thematic Review of Early Childhood Education and Care
- 16 Sheila B. Kamerman(2000)Early childhood education and care: an overview of developments in the OECD countries.
- 17 同上.
- 18 前掲 8.
- 19 前掲 8.
- 20 沢広あや(2004)デンマークにおける子どもケアと校教育の連携について『大阪大学教育学年報』9,p.149-162
- 21 石井正子(2010)スウェーデン,デンマークにおける特別なニーズのある子どもの保育—統合保育所及び保育者養成校視察報告—『学苑・初等教育学科紀要』836,pp.63-74.
- 22 齋藤正典(2008)デンマークの幼児教育の現状と課題『相模女子大学紀要. A, 人文系』72,pp.15-25.
- 23 石田祥代,野澤純子,藤後悦子(2016)我が国における「気になる子ども」の支援に関する一考察—北欧の支援システムを通して—『東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—』23,pp.13-26.
- 24 山田敏(2017)『北欧福祉諸国の就学前保育』明治図書.
- 25 前掲 15.
- 26 The Folkeskole (Consolidation) Act
Unesco,<http://www.unesco.org/education/edurights/media/docs/db4e18f1f260d4ef8ea9ca6e1d4e08d4532fc083.pdf>
- 27 前掲 15.
- 28 小谷正登(2012)デンマークの保育者ペダゴギーの専門性に関する一考察—リベルト大学社会教育学部における養成課程と実践を基に—『臨床教育学論集』武庫川臨床教育学会,5,pp.27-40.
- 29 同上.
- 30 加登田恵子(2012)北欧の精神医療・福祉・教育—2011年デンマーク研修報告—『山口県立大学学術情報』5,pp.101-136.
- 31 同上.
- 32 伏木久始(2009)協働的な学びの指導者を養成するデンマークの教員養成『信州大学教育学部研究論集』3,pp.115-126.
- 33 UCC Web サイト,<https://ucc.dk/international/study-ucc/what-can-i-study/study-social-education>(2018年9月15日参照).
- 34 前掲 21.
- 35 Karen Prins(2012)Lecturer in Pedagogy, International Coordinator UCC, Frøbel. Lecturer in Pedagogy, International Coordinator UCC, Frøbel,
<http://thempra.org.uk/downloads/Karen%20Prins%20-%20Social%20Pedagogy%20at%20Frobelseminariet.pdf>(2018年9月15日参照).
- 36 同上.
- 37 前掲 35.
- 38 前掲 28.
- 39 前掲 28.
- 40 前掲 30.

⁴¹ 前掲 30.

⁴² 前掲 30.

⁴³ 前掲 1.

⁴⁴ 前掲 1.

⁴⁵ 齋藤正典, トート・ガーボル(2010)デンマークにおける乳幼児期のインクルーシブ教育・保育『相模女子大学紀要』
A 人文系, 74, pp.59-70.

⁴⁶ 同上.

平成30年 (2018) 10月11日受理

平成30年 (2018) 12月31日発行